

# 2-1. ZABBIXで可能な監視

通信4社としてZABBIXにて行っている監視設定、メッセージ種別、重要度の定義は以下の通りです。

- ◆基本監視項目◆
- ◆その他監視項目◆
- ◆メッセージ種別◆
- ◆アラートレベル（重要度）の定義◆

## ◆基本監視項目◆

監視項目	監視リスト記入内容			監視内容	アラームメッセージ内容	Agent有無	Win	Linux	Solaris	HP-UX	AIX	Tru64
	監視項目1	監視項目2	監視対象									
PING監視	PNG	vip	IP	Virtual IPからのPing応答 ※瞬断を考慮し3回連続失敗で発報	【xx】 [xx] ホスト名の疎通が確認できません	無	○	○	○	○	○	○
		rip	IP	実IPからのPing応答 ※瞬断を考慮し3回連続失敗で発報	【xx】 [xx] ホスト名の疎通が確認できません	無	○	○	○	○	○	○
ZABBIX Agent監視	AGE	age	-	Agentの可用性のチェック	【xx】 [ZABBIX] ZABBIXエージェントが停止しました	有	○	○	○	○	○	○
CPU使用率監視	CPU	cpu	閾値 (%)	CPU使用率 (%)	【xx】 [xx] CPU使用率がxxを超過しました	有	○	○	○	○	○	○
メモリ監視	MEM	mem	閾値 (%)	メモリ使用率 (Windows, Solaris, 他) ※total - free / total = 使用率	【xx】 [xx] メモリ使用率がxxを超過しました	有	○		○			
			閾値 (%)	メモリ使用率 (Linux, HP-UX, 他) ※total - (free + buffers + cached) / total = 使用率	【xx】 [xx] メモリ使用率がxxを超過しました	有		○		○	○	○
ディスクI/O監視 (Windows)	I/O	rbs	閾値 (Byte)	読み込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト/秒)	【xx】 [xx] 読込DiskI/OがxxByte/secを超過しました	有	○					
		wbs	閾値 (Byte)	書き込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト/秒)	【xx】 [xx] 書込DiskI/OがxxByte/secを超過しました	有	○					
		dql	閾値 (個)	ディスクに残っている処理待ちまたは処理中のキューの要求数	【xx】 [xx] Disk queueがxxを超過しました	有	○					
ディスクI/O監視 (Linux)	I/O	rbs	閾値 (sectors)	読み込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (sectors/秒)	【xx】 [xx] 読込DiskI/Oが xx sectors/secを超過しました	有		○				
		wbs	閾値 (sectors)	書き込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (sectors/秒)	【xx】 [xx] 書込DiskI/Oが xx sectors/secを超過しました	有		○				
ディスクI/O監視 (Solaris)	I/O	rbs	閾値 (Byte)	読み込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト/秒)	【xx】 [xx] 読込DiskI/OがxxByte/secを超過しました	有			○			
		wbs	閾値 (Byte)	書き込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト/秒)	【xx】 [xx] 書込DiskI/OがxxByte/secを超過しました	有			○			
ディスクI/O監視 (HP-UX)	I/O	rbs	閾値 (Byte)	読み込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト/秒)	【xx】 [xx] 読込DiskI/OがxxByte/secを超過しました	有				○	○	○
		wbs	閾値 (Byte)	書き込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト/秒)	【xx】 [xx] 書込DiskI/OがxxByte/secを超過しました	有						
ネットワークインタフェース監視 ※eth0のみ設定	NIF	nii	eth0/閾値 (パケット)	ネットワークインタフェースeth0の受信統計 (パケット数)	【xx】 [xx] ネットワークインタフェースの受信統計がxxを超過しました	有		○				
		nio	eth0/閾値 (パケット)	ネットワークインタフェースeth0の送信統計 (パケット数)	【xx】 [xx] ネットワークインタフェースの送信統計がxxを超過しました	有		○				

## ◆その他監視項目◆

監視項目	監視リスト記入内容			監視内容	アラームメッセージ内容	Agent有無	Win	Linux	Solaris	HP-UX	AIX	Tru64
	監視項目1	監視項目2	監視対象									
サービス監視	SRV	srv	サービス名	任意のwindowsサービスの停止	【xx】 [xx] サービス名が停止しました	有	○					
プロセス監視	PRC	prc	プロセス名/最小起動数	プロセスの最小起動数 ※255バイト以下のプロセス名	【xx】 [xx] プロセス名プロセスが閾値を下回りました or 【xx】 [xx] プロセス名プロセスが閾値を超過しました	有	○	○	○	○	○	○
			プロセス名/超過起動数 (数値&以上と記載)	プロセスの超過起動数 ※255バイト以下のプロセス名		有	○	○	○	○	○	○
		cmd	<user><cmdline>最小起動数	コマンドラインでのプロセス起動数		有		○	○	○	○	○
ロードアベレージ監視	CPU	lod	閾値 (浮動小数点)	CPUのロードアベレージ (浮動小数点)	【xx】 [xx] Load Averageがxxを超過しました	有		○	○	○	○	○
スワップメモリ監視	SME	mem	閾値 (%)	スワップメモリ使用率	【xx】 [xx] スワップメモリ使用率がxx%を超過しました	有	○	○	○	○	○	○
ディスク使用率監視	DSK	cdr~zdr	閾値 (%)	C~Zドライブの使用率	【xx】 [xx] . . . のディスク使用率がxx%を超過しました	有	○					
		pat	パス/閾値 (%)	パーティションの使用率		有		○	○	○	○	○
ファイルシステム監視	FIL	fil	パス/閾値 (Byte)	ファイルサイズの監視	【xx】 [xx] . . . ファイルのサイズ容量がxxByteを超過しました	有	○	○	○	○	○	○
		ind	パス/閾値 (%)		【xx】 [xx] . . . のiノード使用率がxx%を超過しました	有		○	○	○	○	○
		exi	パス	ファイル存在の監視	【xx】 [xx] . . . ファイル名が存在しないことを検知しました or	有	○	○	○	○	○	○



	OS_C2		OSやI/Oの誤動作に関連するメッセージ（基盤用）
	OS_C3		OSやI/Oの誤動作に関連するメッセージ（基盤用）
	OS_Y		OSやI/Oの誤動作に関連するメッセージ（基盤用）
	Middleware	MW	ミドルウェアに関するメッセージ
	Middleware_C1		ミドルウェアに関するメッセージ（基盤用）
	Middleware_C2		監視システム（ZABBIX）に関するメッセージ
	Middleware_C3		ミドルウェアに関するメッセージ（基盤用）
	Middleware_C4		ミドルウェアに関するメッセージ（基盤用）
	Middleware_Y		ミドルウェアに関するメッセージ（基盤用）
廃止	ストレージ残量		
	HA		
	Security		
	Backup		
	R3		

※各システムで登録されているグループは、こちらから各システムの監視リストをダウンロードしてご確認ください。

※「廃止」のメッセージグループ、もしくは基本（固定）以外のメッセージグループを使用している場合は、別途「基本（固定）」へ移行する調整をさせていただきます。

◆アラートレベル（重要度）の定義◆

事象			基本対応			
アラート レベル	内容	サービス 影響	インシデント 登録	エスカレーション		業務影響 確認
				メール	電話	
危険域	システムに異常が発生しており、一部のサービスが利用不可、または特定のデータ不正や処理異常が発生する可能性がある	あり (or可能性あり)	あり	あり	あり	あり
重要警戒域	システムに異常が発生しているが、即時に適切な対処をする事でサービスへの影響は発生しない	なし	あり	あり	あり	なし
警戒域	システムに異常が発生しているが、翌日以降に適切な対処をする事でサービスへの影響は発生しない	なし	あり	あり	なし	なし
特別注意域	システムリソースの注意を促すイベントであり、経過観察が必要な事象である。サービスへの影響は発生しない	なし	なし	あり	なし	なし
注意域	システムの軽微な警告やインシデントの予防を促すイベントであり、対処を実施しなくてもサービスへの影響は発生しない	なし	なし	なし	なし	なし
未分類	監視設定部門が必要に応じて使用。	-	-	-	-	-